

29amE-009

N-メチルニトロソ尿素に対する甘草中の抗変異原性成分

○峯 裕資¹, 稲見 圭子¹, 望月 正隆¹, 立崎 仁²(¹東京理大薬, ²常磐植物化学研)

【目的】甘草 (*Glycyrrhiza glabra* L.) は、古くから薬用として用いられ、葛根湯、桂枝湯、小柴胡湯などの漢方処方に広く用いられている。これまでに甘草エタノール抽出物が直接発がん物質である *N*-methyl-*N*-nitrosourea (MNU) の変異原性を抑制することを報告した。さらに甘草エタノール抽出物中の抗変異原性成分の一つとして licoricidin を単離・同定した。本研究では甘草エタノール抽出物中の licoricidin 以外の抗変異原性成分を単離し、構造決定することを目的とした。

【方法・結果】活性の指標となる抗変異原性試験には *Salmonella typhimurium* TA1535 を使用し、MNU 濃度は 1.5 $\mu\text{mol}/\text{plate}$ とした。甘草エタノール抽出物をヘキサン、四塩化炭素、ジクロロメタン、酢酸エチル、エタノールに順次溶解し、各有機溶媒分画を調製した。最も強い抗変異原性を示したジクロロメタン分画をカラムクロマトグラフィーおよび分取 HPLC を用いた分離・精製と各分画の抗変異原性試験を繰り返し、活性分画を決定した。活性成分を単離し、¹H-NMR、MS スペクトルを文献と比較することで、甘草エタノール抽出物中の新たな抗変異原性成分として glyasperin B、licoisoflavone B を単離した。

